

# 幼児教育コーディネータ概論

第3講 「ハイブリッド型授業のデザイン」

久世 均(岐阜女子大学)

# 第3講 「ハイブリッド型授業のデザイン」

## 【目的】

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための「新たな学び」やそれを実現していくための「新たな学びの空間」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。

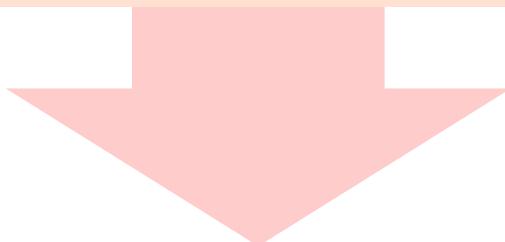
さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。そこで、ここでは遠隔授業の教育利用・研究での課題について考える。

## 【学習到達目標】

- ハイブリット型授業について具体的に説明できる。
- ハイブリット型授業について授業設計ができる。

# 子供たちの未来

- 子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く  
キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）
- 今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い  
マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）
- 2030年までには、週15時間程度働けば済むようになる  
ジョン・マイナード・ケインズ氏（経済学者）
- 日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に  
(2015年12月02日 株式会社野村総合研究所)



現在の職業の多くは、今後なくなっていく

# 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む  
**「社会に開かれた教育課程」の実現**

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない※**

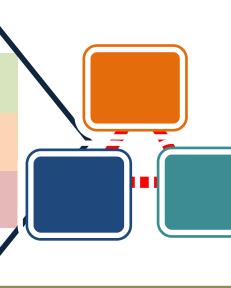
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の  
習得など、新しい時代に  
求められる資質・能力を  
育成

知識の量を削減せず、質  
の高い理解を図るための  
学習過程の質的改善

深い学び  
対話的な学び  
主体的な学び



# アクティブ・ラーニングの視点に立った学習プロセスにおけるICTの効果的活用の例

問題発見・解決  
のプロセス

ICTの効果的活用の例

他者への働きかけ、他者との協働、外部との相互作用

問題の発見

問題の定義  
解決の方向性の決定

解決方法の提案  
計画の立案

結果の予測  
計画の実行

振り返り

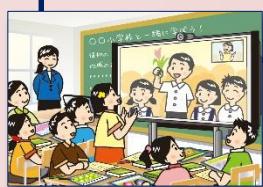
次の問題解決へ

対話的な  
学び

深い学び

主体的な  
学び

他校の児童生徒、社会人、外国人の人々等との交流



協働での意見の整理  
(意見の共有、比較検討)

発表(プレゼンテーション)や話し合い



協働制作・製作  
(レポート、発表資料、マルチメディア作品、ロボット等の製作品、プログラム等)



シミュレーションの活用、データ分析



課題の把握  
(情報の提示による興味・関心の喚起)



インターネット等を活用した調査活動(調べ学習)



マルチメディアによる資料や作品の制作

記録の活用  
(自らの学びの振り返り)

「学びのイノベーション事業実証研究報告書」(平成25年度)を基に作成

留意すべき点

- ✓ 各プロセスと活用例との対応は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ✓ 学習活動のつながりと学びの広がり(例えば、対話的な学びが起こりつつ、深い学びや主体的な学びも実現されていることを意図した、単元の構成の工夫等が望まれること)

個に応じた学習

遠隔教育

家庭学習・反転学習

障害の状態等に応じた指導

上記のプロセスの全てに当てはまる活用

# 第3講 「ハイブリッド型授業のデザイン」

## 1. 遠隔教育

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むために「**新たな学び**」やそれを実現していくための「**新たな学びの空間**」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。

さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。

## 2. e-Learningと遠隔授業を組み合わせた授業構成

### ハイブリット型授業のパターン

- a. ハイフレックス型授業
- b. ブレンド型授業
- c. 分散型授業

# ハイブリット型授業のデザイン

ハイブリッド型授業とは、対面授業とオンライン授業とを組み合わせた授業システムのこと。

1



2



3



4



# 課題

1. 遠隔教育の変遷について説明しなさい。
2. ハイブリット型授業の3つのパターンについて、具体例を挙げて説明しなさい。
3. ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。
4. ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。
5. 遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。
6. 遠隔協働学習を企画し、実際にやってみなさい。

# 第3講 「ハイブリッド型授業のデザイン」

## 【目的】

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための「新たな学び」やそれを実現していくための「新たな学びの空間」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。

さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。そこで、ここでは遠隔授業の教育利用・研究での課題について考える。

## 【学習到達目標】

- ハイブリット型授業について具体的に説明できる。
- ハイブリット型授業について授業設計ができる。

# 幼児教育コーディネータ概論

第3講 「ハイブリッド型授業のデザイン」

久世 均(岐阜女子大学)